

授業科目	動物と作業療法				
担当者	黒川晶平 (実務経験者)・木村佳友・水上 言 (実務経験者)・吉田 文 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	黒川晶平 (実務経験者)：獣医として動物リハビリテーションに携わる 水上 言 (実務経験者)：介助犬トレーナーとして介助犬の育成・啓発、障害者の支援に携わる 吉田 文 (実務経験者)：作業療法士として介助犬の導入、合同訓練への協力など介助犬使用者のリハビリテーションに携わる、また精神科病院、認知症デイケアで動物介在療法を実施				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬(介助犬)を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や実務経験者による事例紹介や臨床を再現した体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり
- 第2回 動物介在療法、動物リハビリテーション、身体障害者補助犬の概要
吉田 文 (実務経験者)
- 第3回 動物リハビリテーション① (概要)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第4回 動物リハビリテーション② (疾患と評価)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第5回 動物介在療法① (概要)
吉田 文 (実務経験者)
- 第6回 動物介在療法② (作業療法と動物介在療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第7回 動物介在療法② (作業療法における展開例)
吉田 文 (実務経験者)
- 第8回 動物介在療法③ (演習)
吉田 文 (実務経験者)
- 第9回 動物介在療法④ (まとめ) 小テスト
- 第10回 身体障害者補助犬① (盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第11回 身体障害者補助犬② (介助犬と作業療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第12回 身体障害者補助犬③ (介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携)
水上 言 (実務経験者)
- 第13回 身体障害者補助犬④ (介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために)
- 第14回 身体障害者補助犬⑤ (まとめ) 小テスト
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

リアクションペーパーの提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%
出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル
著者名：古川 宏
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法
著者名：高柳友子他
出版社：医歯薬出版

書名：よくわかるアニマルセラピー—動物介在療法の基礎とケーススタディ
著者名：メリー・R. パーチ
出版社：インターズー

書名：BSAVA 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法
著者名：長谷川篤彦 監修
出版社：学窓社

書名：犬のリハビリテーション
著者名：北尾貴史 他監訳
出版社：インターズー

書名：犬と猫のリハビリテーション実践テクニック
著者名：枝村一弥他 訳
出版社：インターズー

書名：介助犬を知る
著者名：高柳哲也
出版社：名古屋大学出版会

書名：介助犬を育てる少女たち—荒れた心の扉を開くドッグ・プログラム
著者名：大塚敦子
出版社：講談社

書名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月
著者名：NHK プリズンドッグ取材班
出版社：ポット出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって